
総合計画の 策定にあたって

遠軽町は、平成17年10月1日に、生田原町、遠軽町、丸瀬布町、白滝村の4町村合併により誕生し、間もなく20周年を迎えます。

本町は、森林や清流の自然に恵まれ、近隣のオホーツク海やサロマ湖も含め自然環境を生かした農林水産業で日本をささえるオホーツク地域の交通の要衝として発展してきた歴史があり、オホーツク地域の北半分を占める遠紋地域において紋別市と並んで中心的役割を果たしています。

しかし、近年は人口減少、少子高齢化の進展に伴い行政コストが悪化しているとともに、町民ニーズや価値観、地域の課題の多様化、複雑化が進んでいます。

このような情勢の中で環境の変化に的確に対応した持続可能なまちづくりを推進するため、本町の現状や課題、目指すべき姿を町民と共有し、長期的視点による指針として本計画を定めるものです。



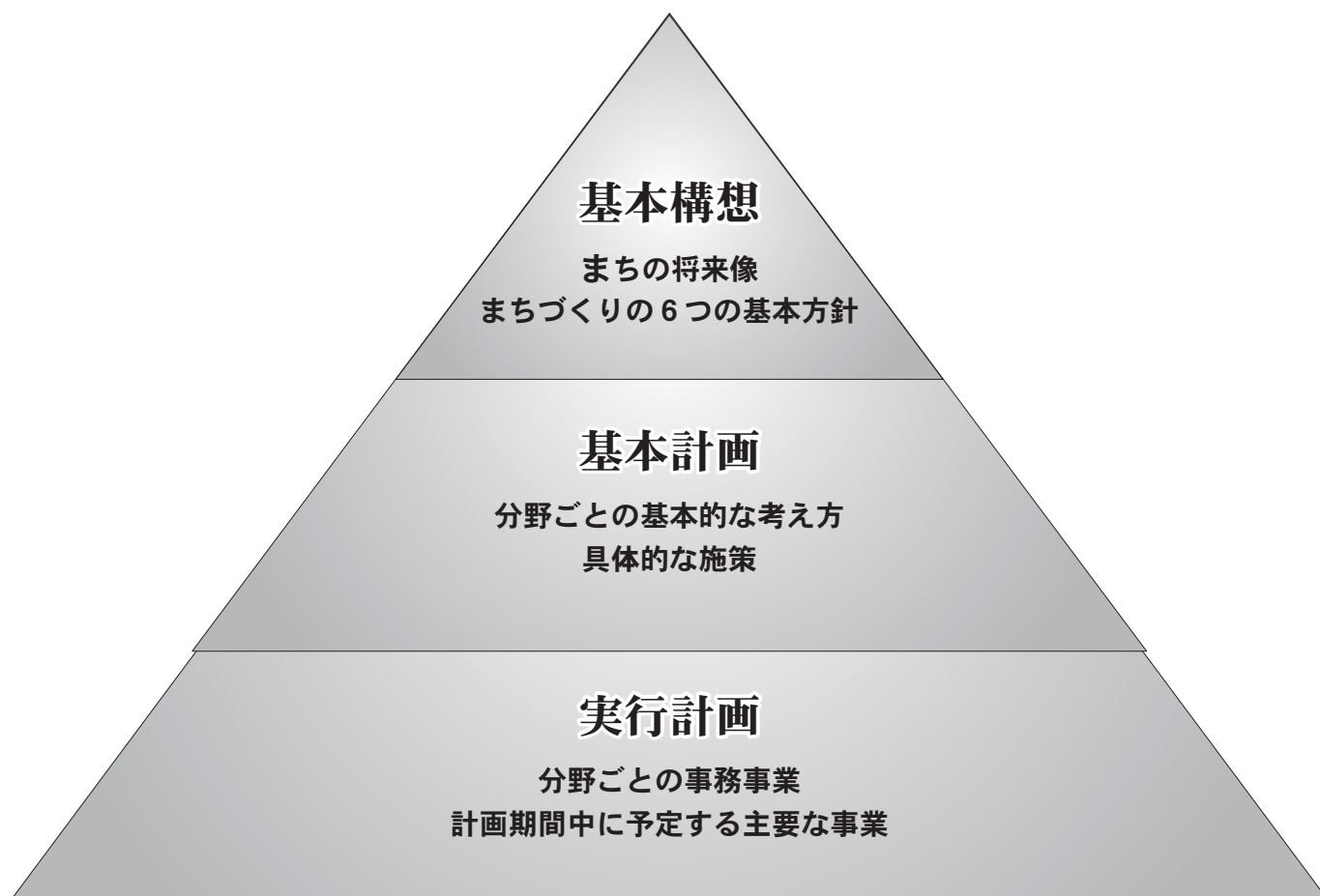
(1) 計画の性格

本計画は、遠軽町まちづくり自治基本条例※第25条第1項に基づく総合計画として町の将来の発展を展望し、長期的な視点に立った発展の方向性と将来の目標、それを実現していくための町政の指針や取り組む内容などを定め、まちづくりを進めていく上で最も上位に位置付けられる計画です。

このため、分野ごとの個別計画については、本計画との整合性を持たせることとします。

(2) 計画の構成

まちづくりの基本理念や目指すべきまちの将来像などの目標、目標を達成するための基本方針などを示した「基本構想」、基本構想の実現に向けて施策を示した「基本計画」、基本計画を実行するための事務事業などを示した「実行計画」で構成されます。



(3)計画の期間

計画の期間は、令和7年度から令和16年度までの10年間としますが、「基本計画」と「実行計画」については、より実効性のある計画とするため、中間年度で見直しを行い、令和12年度から令和16年度までの後期分を改めて策定することとします。

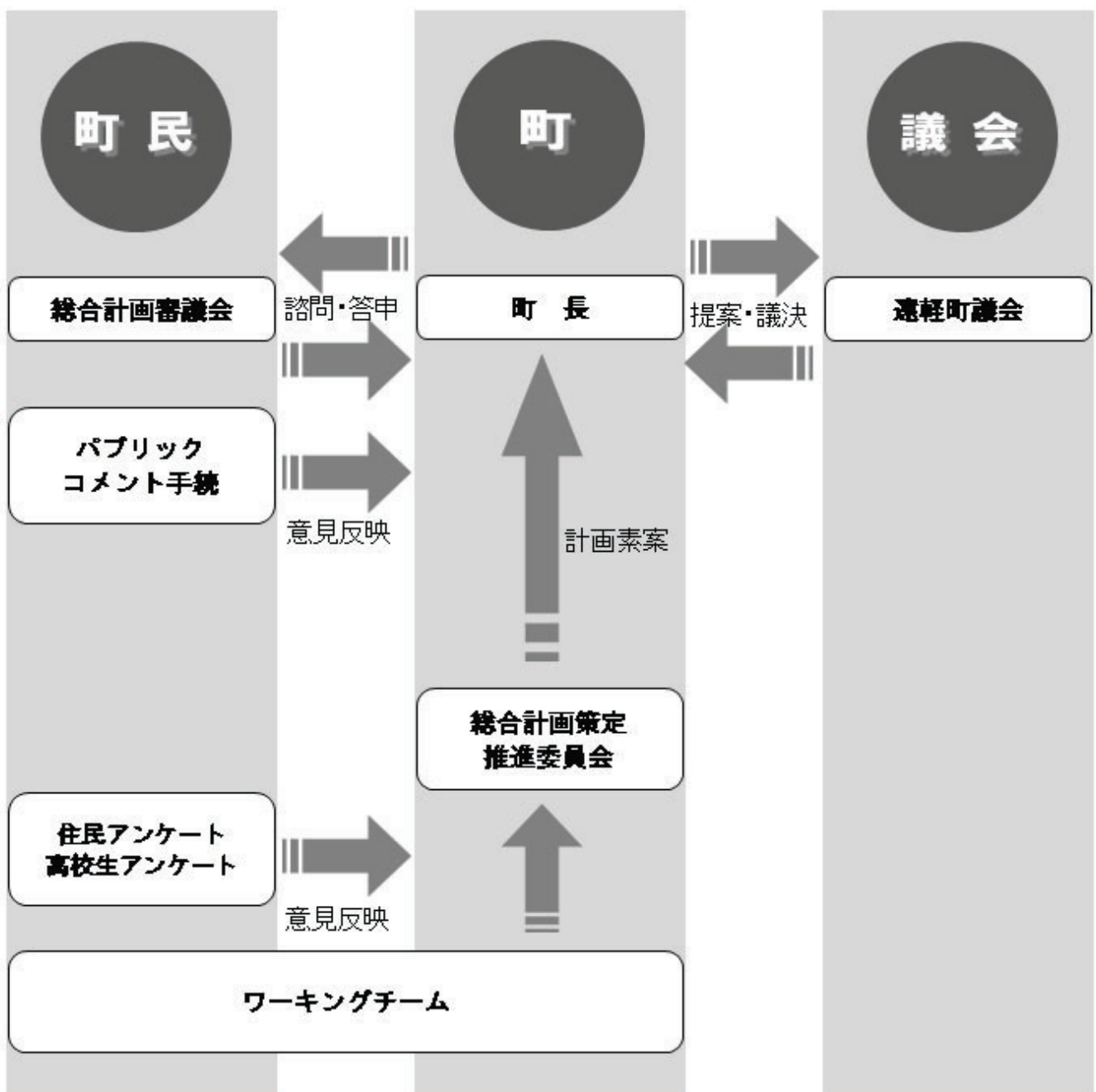
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
基本構想	基本構想 令和7年度～16年度									
基本計画	前期基本計画 令和7年度～11年度					後期基本計画 令和12年度～16年度				
実行計画	前期実行計画 令和7年度～11年度					後期実行計画 令和12年度～16年度				



(4) 計画の策定体制

総合計画は、総合的なまちづくりの方向性を示した計画であると同時に、そこに暮らす町民にとっても身近な生活に関わる計画となることから、策定にあたっては、町民のニーズを把握し、計画に反映させることが求められます。

このため、本計画の策定においては、計画素案を作成するワーキングチームに一般公募での参加を募るとともに、高校生世代や町民を対象としたアンケートの実施、計画素案に対する意見を募集し反映させる「パブリックコメント手続※」などを行い、町民参加による計画づくりに努めました。



(1) 沿革

本町は、明治13年7月、紋別ほか9か村戸長役場の管轄に属し、湧別戸長役場、湧別村、上湧別村を経て、大正8年4月に現在の区域と同一の遠軽村が誕生しました。

その後、大正14年1月に生田原村(当時)が、町制施行(昭和9年4月)後の昭和21年8月には、丸瀬布村(当時)と白滝村が分村し、それ以降は、それぞれの計画や理念に基づき、個性と魅力あるまちづくりを進めてきました。

21世紀に入り、経済成長の低迷や少子高齢化の進行など、地域を取り巻く情勢が厳しくなる一方で、地方自治体には、「地域の発展を主体的に担う役割」がより一層求められるようになりました。しかし、国・地方の財政状況の悪化や都市への人口流出などにより行政サービスの水準を維持することが困難な状況となりました。

このような背景を受けて、生田原町、遠軽町、丸瀬布町、白滝村の4町村で、合併の必要性や効果の検証、確認を行った結果、平成17年10月に町村合併し、新たな遠軽町が誕生しました。新たな遠軽町では、第1次・第2次の総合計画を定め、まちの一体感の醸成を図りながらまちづくりを進めてきました。

(2) 町勢

本町は、北海道の北東部、オホーツク総合振興局管内のほぼ中央、内陸側に位置し、北は紋別市、滝上町、東は湧別町、佐呂間町、西は上川総合振興局管内上川町、南は北見市と接しています。総面積は1,332.45km²で、全国の町村で2番目に広く、香川県の面積の約7割に相当します。

「北海道の屋根」と呼ばれる大雪山系から連なる森林地帯が広がる緑豊かなまちで、そこから生まれる大小さまざまな支流が合流して湧別川となり、オホーツク海へと注いでいます。これらの広大な森林と澄んだ清流によって肥よくな大地がつくられ、開拓当初から農耕地に適した環境として繁栄してきました。

北海道内の14(総合)振興局管内中、本町が含まれるオホーツク地域は漁業生産高(令和4年北海道水産現勢)で1位、農業算出額(農林水産省「令和4年市町村別農業産出額(推計)」)で2位、製材生産量(令和4年度北海道林業統計)で1位を占め、農林水産業において特に重要な地域となっています。

その約半分の面積を占める遠紋地域(面積は愛知県や千葉県に匹敵)においては、紋別市と並んで本町が中心地としての機能を担っています。特に医療と教育では遠軽厚生病院と北海道立遠軽高等学校がそれぞれ地域最大の規模を有し、遠紋地域住民の生活をささえています。

また、戦後に警察予備隊を町民有志の運動により誘致した経緯から陸上自衛隊遠軽駐屯地と町はほかに類を見ない強い結び付きがあり、都市機能の維持や文化面など、まちづくりに欠かせない存在となっています。

本計画の策定にあたり、町民の皆さんが日頃の暮らしや生活環境をどのように感じているのかをはじめ、これまでのまちづくりへの評価や今後の遠軽町への期待、意見などを把握するため、町内在住の20歳以上の方から無作為に抽出した3,000名を対象とした「町民アンケート調査」と遠軽高等学校2・3年生を対象とした「高校生アンケート調査」を実施し、次のような結果が得られました。

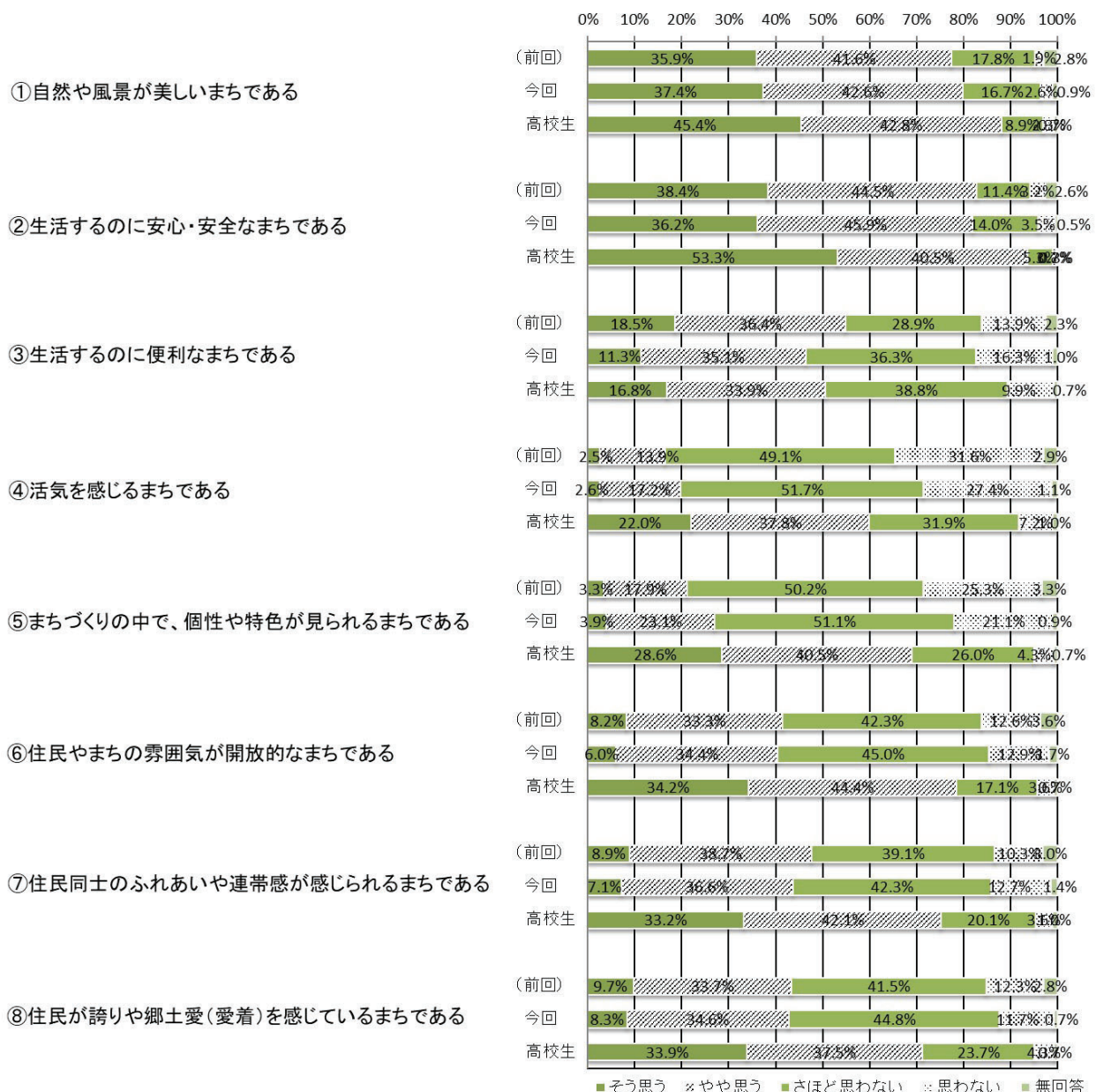
(1) 主なアンケート結果の内容

【現在の遠軽町の印象】

現在の遠軽町をどのような町だと思っているか

(前回：前回の町民アンケート結果　今回：今回の町民アンケート結果)

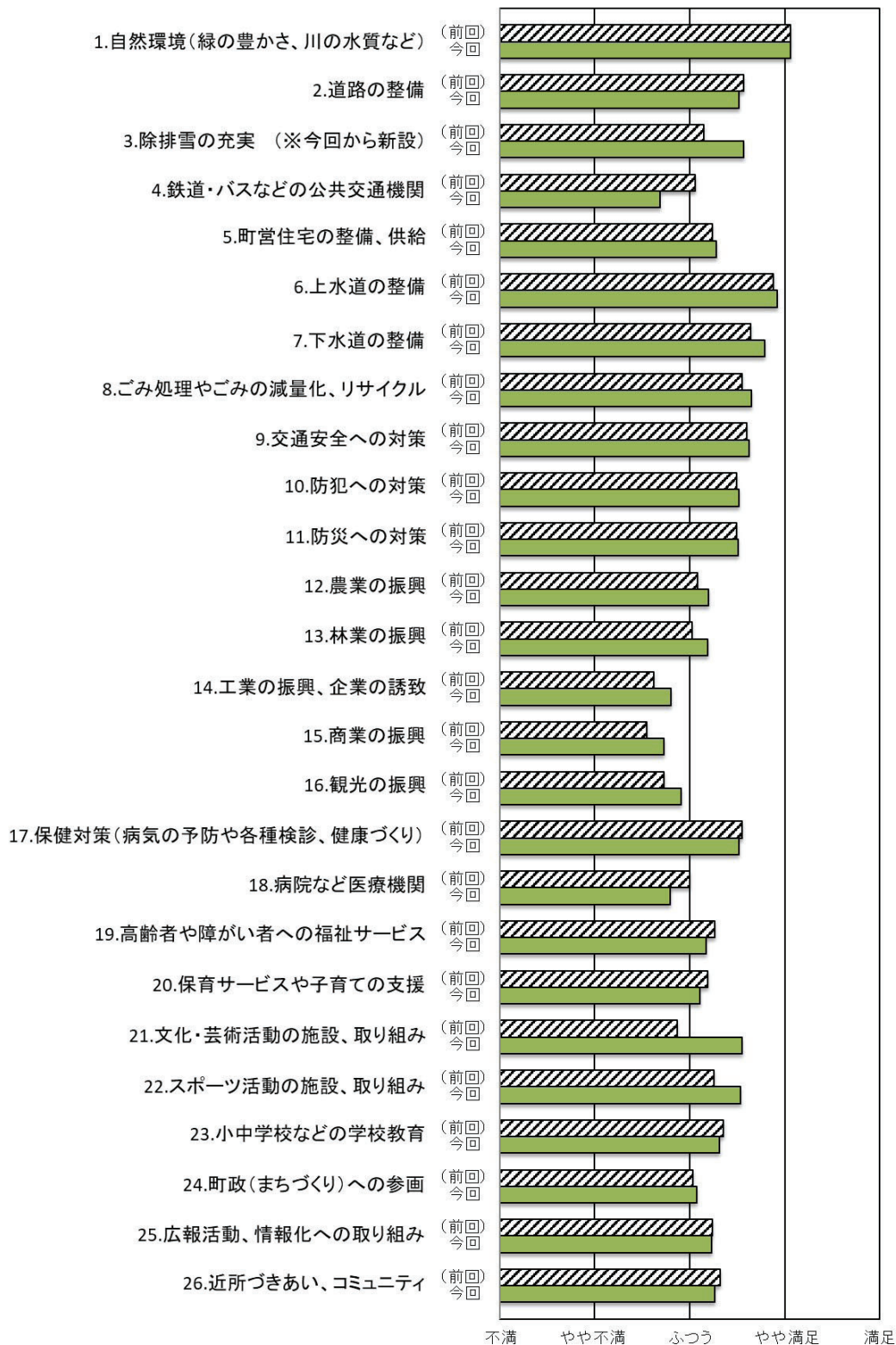
高校生：高校生アンケート結果)



【遠軽町での生活の満足度】

遠軽町の現状についてどの程度満足しているか

(前回：前回の町民アンケート結果　今回：今回の町民アンケート結果)



※このグラフは、回答者数によって平均値を算出した「加重平均」で示しています。

【重要度の高い取組】

今後のまちづくりについて、特にどの分野に力を入れて取り組んでほしいと考えているか
(上位5位を掲載)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
高校生	鉄道やバス等公共交通機関の充実	観光・物産の振興	スポーツの振興	子ども教育の充実	道路の整備
	38.8	36.2	29.9	24.3	19.1
20代	保育サービスや子育て支援の充実 /子ども教育の充実		観光・物産の振興	鉄道やバスなど公共交通機関の存続	除排雪の充実
	37.9(同率)		36.8	33.3	31.0
30代	子ども教育の充実	保育サービスや子育て支援の充実	地域医療の確保と整備	除排雪の充実	鉄道やバスなど公共交通機関の存続
	47.9	47.1	39.7	30.6	26.4
40代	地域医療の確保と整備	子ども教育の充実	雇用・就業の場の確保	保育サービスや子育て支援の充実	鉄道やバスなど公共交通機関の存続
	51.7	44.4	35.8	31.1	25.8
50代	地域医療の確保と整備	鉄道やバスなど公共交通機関の存続	雇用・就業の場の確保	除排雪の充実	高齢者や障がい者等の福祉の充実
	46.7	43.2	34.9	29.3	27.9
60代	地域医療の確保と整備	鉄道やバスなど公共交通機関の存続	雇用・就業の場の確保	高齢者や障がい者等の福祉の充実	除排雪の充実
	55.4	46.5	38.5	35.8	32.7
70代以上	鉄道やバスなど公共交通機関の存続	地域医療の確保と整備	高齢者や障がい者等の福祉の充実	雇用・就業の場の確保	除排雪の充実
	53.3	40.8	38.0	30.8	28.0

【まちづくり分野の満足度と重要度の関係】

遠軽町での生活の満足度と、今後のまちづくり分野の重要度を比較すると、設問の項目設定が同一でないため厳密な比較はできませんが、項目によって「満足度が低く、重要度が高い」「満足度は高いが、重要度も高い」「満足度が高く、重要度は低い」などの傾向が見られます。

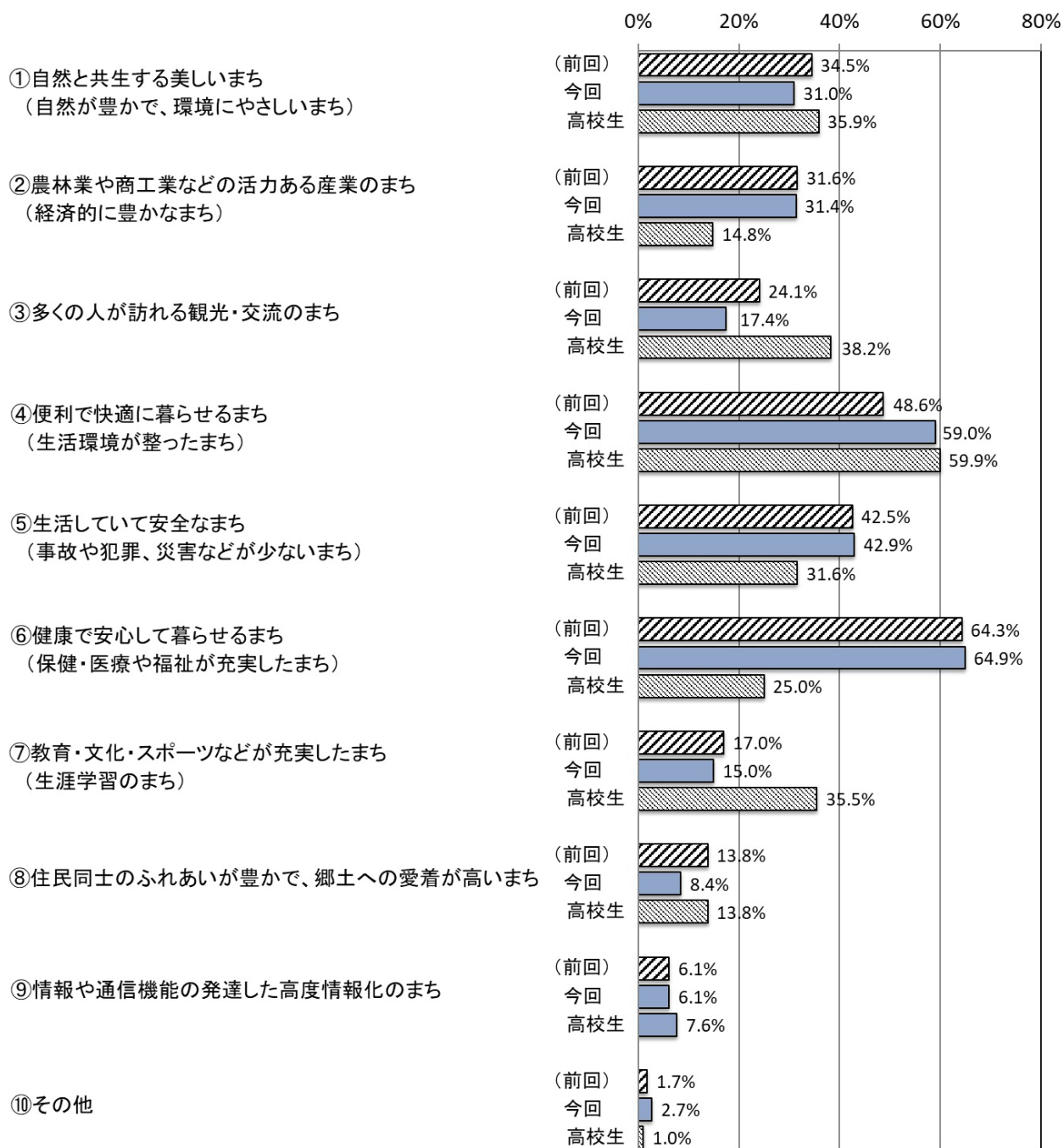
満足度と重要度の関係	傾向が見られる項目
満足度が低く、重要度が高い (現状に不満を持ち、今後の重要性を指摘)	地域医療の確保と整備 鉄道やバスなど公共交通機関の存続 高齢者や障がい者等への福祉の充実 保育サービスや子育て支援の充実 企業の誘致、観光・物産の振興
満足度が高く、重要度も高い (現状を評価しているものの、今後の重要性も指摘)	除排雪の充実
満足度が高く、重要性は低い (現状に一定の満足度があり、今後の重要性が高くない)	自然環境の保全 上水道の安定供給 生活排水処理(下水道、浄化槽等)の充実 交通安全対策の充実

【遠軽町の将来像】

遠軽町が今後どのような町になってほしいか

(前回：前回の町民アンケート結果　今回：今回の町民アンケート結果)

高校生：高校生アンケート結果)



(2) アンケート結果から得られた町民の意識、評価

①遠軽町は「生活するのに安心・安全」「自然や風景が美しい」との評価は高いが、「活気を感じる」「まちづくりに個性や特色が見られる」では評価が低い

現在の遠軽町の印象を訪ねた結果で最も好印象(高評価)だったのは、「生活するのに安心・安全なまち」で、その理由として、災害や交通事故、犯罪などが少なく安心であるということや、防災対策の満足度が高いことなどでした。

続いて評価が高かったのは、「自然や風景が美しいまちである」で、町の面積の約9割を占める豊かな森林資源や、町内を縦貫し流れる湧別川や生田原川の清流があることなど、自然に恵まれた環境にあることが評価されています。

一方で、評価が低かったのは「活気を感じるまちである」という項目でした。町民アンケートにおいて「さほど思わない」「思わない」の割合が最も多く、高校生アンケートにおいても「さほど思わない」「思わない」の割合が2番目に多い割合となり、現状として、街中に活気を感じられないといった印象を持っている人が多いことが分かります。

続いて評価が低かったのは「まちづくりの中で、個性や特色が見られるまちである」という項目でした。まちづくりに対して、町民の多くは個性や特色が見られないといった印象を持っている人が多いことが伺えます。

②「地域医療の確保と整備」「鉄道やバスなど公共交通機関の存続」は重要度が高いとともに、現状への不満も多い

遠軽町の今後のまちづくりで特に力を入れて取り組んでほしいもの(重要度が高かったもの)については、「地域医療の確保と整備」が最も高く、次いで、「鉄道やバスなど公共交通機関の存続」、「雇用・就業の場の確保」という結果になりました。

そのうち、「地域医療の確保と整備」と「鉄道やバスなど公共交通機関の存続」の項目については、別に行った満足度調査の結果では、現状の満足度が低かった項目でもあることから、町民が特に取組を必要としているものであるといえます。

③遠軽町の暮らしやすさや好きな思いを妨げる要因は「医療・福祉の不安」や「買い物物の不便さ」

遠軽町が暮らしやすい(好きな)理由としては、町民・高校生ともに「生活するのに安心・安全なまち」であることが支持されている一方、暮らしにくい(好きではない)理由として、町民アンケートでは「医療や福祉面が不安だから」が最も多く、次いで「買い物する場が少ないから」という結果になりました。「買い物する場が少ないから」は、高校生アンケートで最も多く、町民、高校生ともに買い物物の不便さが、生活環境の満足度や住みやすさを妨げる大きな要因となっているといえます。

④ 5割強の人が遠軽町に住み続けたいと思っている

遠軽町への定住意向について尋ねたところ、「今の場所に住み続けたい」または「町内の別のところに移りたい」と答えた町民は、全体の約53%となりました。一方で、同じ設問に対する高校生の回答では、約14%と極端に定住意向が少ない状況であり、進学などで「一度は町外に出るかもしれないが、また戻ってきたい」と答えた高校生が約23%であったものの、町外に移りたい意向を持つ高校生は約44%であるため、多くの高校生は町外に移りたいと考えているといえます。

⑤ 将来に望む遠軽町の姿は、町民が「健康で安心して暮らせるまち」、高校生は「便利で快適に暮らせるまち」

町民アンケートで今後なってほしい遠軽町の姿を尋ねたところ、「健康で安心して暮らせるまち(保健・医療や福祉が充実したまち)」が約65%で最も多く、「便利で快適に暮らせるまち(生活環境が整ったまち)」が約59%、「生活していて安全なまち(事故や犯罪、災害などが少ないまち)」が約43%と続きます。遠軽町の将来を考える上で、医療体制の充実、生活環境の整備、安心・安全といった、遠軽町で暮らしていくために基本となる生活環境の整備・充実が多くの町民から望まれていることが分かります。

一方、高校生に10年後になってほしい遠軽町の姿を尋ねたところ、「便利で快適に暮らせるまち(生活環境が整ったまち)」が約60%で最も多く、「多くの人を訪れる観光・交流のまち」が約38%、「自然と共生する美しいまち(自然が豊かで、環境にやさしいまち)」が約36%と続きます。高校生は、別な設問で行った遠軽町が好きな理由の結果でも、「さほど思わない」「思わない」という回答が最も多かったのが「生活するのに便利なまちである」という項目であったことから、町民(大人)と同様に、より生活するのに便利で快適に暮らせるまちになってほしいと考えていることが分かります。

⑥ 町民アンケート結果と高校生アンケート結果の比較について

町民アンケート回答者の年齢層については、全体の回答者数の7割が50歳代以上でした。町民アンケートと高校生アンケートにおける回答内容の差については、年齢層による関心の違いがより強調されている可能性があります。

(1)人口減少と少子高齢化の本格化

【全国の社会状況】

日本の総人口は本格的な減少局面を迎え、併せて平均寿命の延伸と団塊の世代の高齢化により高齢者の割合が急速に増加しています。人口減少、少子高齢化は社会保障費の増大、労働者不足など社会生活のさまざまな面に影響を与えています。

【遠軽町の状況と課題】

本町の人口は17,800人(令和6年7月末現在、住民基本台帳)となっており、平成17年の合併時23,648人から約24.7%減少しています。年齢構成別の割合は、14歳以下の年少人口が9%、現役世代といわれる15歳～64歳の生産年齢人口は52%、65歳以上が39%となり、高齢化率は上昇する一方で、現役世代の割合が減少しています。

人口の減少を抑制する施策の一方で、人口減少や人口構成の変化に合わせた持続可能なまちづくりを考える必要があります。

(2)自然災害や感染症などへの危機管理意識の高まり

【全国の社会状況】

令和元年に初めて確認された新型コロナウイルス(COVID-19)は、国民社会生活、国内経済などあらゆる面で大きな影響を与えました。

また、近年、気候変動の影響などにより自然災害が激甚化・頻発化しています。

そのほかにも、技術の進歩や社会変化に伴い、サイバー犯罪*やSNS*における誹謗中傷など、犯罪が複雑・巧妙化していることから、国民の危機管理意識が高まっています。

【遠軽町の状況と課題】

コロナ禍を経て、町民のライフスタイルや価値観に大きな変化が生じています。町民の新たなニーズに寄り添った柔軟な対応により、安全・安心に暮らすための生活環境づくりが求められています。

本町は、比較的自然災害が少ないことから、安全・安心なまちとの評価が高くなっていますが、これからも町民が安心して安全に暮らしていけるように、町民、地域、行政などが、それぞれ主体となり、連携・協力しながら、多様化する町民生活における諸課題の解決に取り組んでいくことが求められています。

特に、町民をはじめ近隣市町村の住民が安心して暮らすことができるよう、地域医療の確保と充実を図っていくことが求められています。

(3) 持続可能な発展に向けた国際目標(S D G s)の実践

【全国の社会状況】

S D G s は、2015年に国連総会で採択された2030年までに達成を目指す国際的な目標群で、経済、社会、環境の三つの分野にまたがる17の目標と、それに付随する169のターゲットから構成され、貧困の撲滅、平等の促進、気候変動対策など、持続可能でより良い未来を築くための包括的な課題への取組が国際社会全体で推進されています。日本においても誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けた取組が地方公共団体、民間企業、金融機関などの多様な主体により推進されています。

【遠軽町の状況と課題】

本町においても、国際的目標であるS D G sを意識して持続可能なまちづくりを推進することが求められます。

(4) 高度情報化を反映したまちづくり

【全国の社会状況】

情報通信インフラ※の整備やスマートフォンの普及が進んだことなどを背景に、生活や経済活動においてデジタル技術の活用が進んでいます。

国においては、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会問題の解決を両立するS o c i e t y 5.0※の実現と社会経済活動全般のデジタル化の推進を通じて制度や政策、組織の在り方などをそれに合わせて変革していく社会全体のD X (デジタル・トランスフォーメーション)※の取組を加速させています。

【遠軽町の状況と課題】

人口減少、広域分散型社会構造、大都市圏から遠隔であるなどの本町の状況を踏まえると、デジタル技術の活用は、地域課題の克服に向け、有効な手段になりえます。まちづくりのさまざまな分野でデジタル技術の活用を広げていくことが求められます。

(5) 国や地域を越えた関係の深化と国家安全保障意識の高まり

【全国の社会状況】

国や地域を越えた文化や人の交流が活発化しています。これにより、国際的な人材育成や多様性の尊重がますます求められています。一方で、国家間の対立や緊張の高まる国際情勢が見られ、国民意識においても国家安全保障の在り方への関心が高まっています。

【遠軽町の状況と課題】

本町の外国人登録者数は、160人(令和6年7月末現在、住民基本台帳)となっており、10年前の69人から約2.3倍に増加しています。また、外国人宿泊客数も513人(令和5年度)で、10年前の101人から約5倍に増加しています。

少子高齢化が進む中、外国人は地域サービスの重要な担い手となり、地域に消費を生み、文化的多様性をもたらすなど、地域社会を豊かで多様性に富んだものにする可能性があります。

外国人の増加は、多様なチャンス一方で、文化の違いに起因する住民間のあつれきなどの課題をもたらすことがあります。それに対応するための包括的で多面的な取組と社会の理解が求められます。

(6) 町民同士のつながりと地域力の強化

【全国の社会状況】

近年、都市化の進展やライフスタイルの変化、IT技術の普及に伴うインターネットでの関わりの増加などにより、従来の地域社会での顔の見える関係が減少した「コミュニティの希薄化」が進んでいます。

これにより、孤立感の増大、防犯・防災機能の低下、孤独死の増加や子育てなどにおける悩みの相談先の減少、地域の文化や伝統が継承されないなどの問題が生じています。

【遠軽町の状況と課題】

本町においては、さまざまな要因から、自治会などの解散や加入者の高齢化などの傾向が見られます。これにより、持続的に行われてきた地域活動や、防犯・防災などにおいて必要な「地域力」が低下することにつながっていることから、町民同士のつながりと地域力を強化することが一層求められています。